広島県地方産業教育審議会（第３回）　議事録（協議概要）

１　開催日時

令和４年３月29日（火）

２　開催場所

広島ＹＭＣＡ国際文化センター　２号館大会議室

３　出席委員

本多委員，植月委員※，山本委員，川村委員，小池委員，長坂委員，古澤委員，久保委員，山髙委員，吉村委員（※印のある委員は，オンライン会議システムを通じての出席）

４　事務局出席者

平川教育長，冨永学びの変革推進部長，杉本学校経営戦略推進課長，竹志高校教育指導課長，中間教育指導監，中村主査，小桝指導主事，田中指導主事，開地指導主事，後藤指導主事，和田主任

５　議題等

(1) 開会
(2) 報告
(3) 協議
(4) 閉会

６　協議概要

会　　長：

○　本日は中間報告の素案の審議を中心に，意見交換を行う。

まず全体の構成，項目立てなど，全体像についての確認を行った後に，章ごとの内容について議論していきたい。大きな章立てが４つあり，４章目が具体的な方策で，そこに向かって章立てをしているということや，第２章に，初めて目指す姿を入れたということだが，この構成・流れ，章立て等について，御意見があればお願いしたい。

委　　員：

○　第１章の「本県産業を取り巻く状況」について，「(2) 専門学校・専門学科の現状」は，これでいいと思う。その前提になる「(1) 急激に変化する社会」というところで，タイトルは「急激な変化」と言ってるが，急激どころではない状況だ。ウクライナ侵略※が発生して，これまで何十年と来ていたグローバリズムも終わり，この先どうなるか分からない。

今，ＳＤＧｓ※がキーワードみたいになっているが，完全に吹っ飛んで食料問題になる。食料を奪い合うという状況になる。そういう危機感とか，未来が決して明るくない社会環境だと明示すべき。

○　こういう時にキーワードがすごく大事で，キーワードというのはその言葉からいろんなことに想起，考察が方向性を持って進んでいくパワーのあるもの。キーワードがあると，抽象的な概念を共有でき，議論が早くできるので，そういうキーワードをつくるべきだと思う。

含蓄を持ったキーワードはＶＵＣＡだと思う。ＶＵＣＡと書くと，読んだ人は「何じゃそれ」となると思うが，「何じゃそれ」の方がいい。人間は必ず疑問に対して解決しようという本能を持っている。「ＶＵＣＡって何や」と思って見てみると，「ほうほう，そういうことか」と〔理解してもらえるという〕効果がある。

ＶＵＣＡ※は，非常にぶれが激しく，不透明，複雑で，曖昧であるという意味で，80年代の極東アジアを指した軍事用語だった。中国の台頭や台湾問題，あるいはインドが台頭する中で，非常に極東が不安定になっていることを称してＶＵＣＡという言葉が生まれた。これが経営学でも取り上げられて，ＶＵＣＡと言われ始め，私達も当たり前にＶＵＣＡと使っている。

コロナの拡大で「スーパーＶＵＣＡ」になったと言っていたが，ウクライナ侵略で，もはや「ウルトラＶＵＣＡ」だ。非常にふり幅が激しい，これほどのふり幅はここ何十年間なかった。だから，もし広島県教育委員会や広島県の学校の先生が環境認識をする上で，ＶＵＣＡというキーワードをみんな知っているという状況になると，それだけでもすごい。考え方が変わってくると思う。だから，キーワードを設定すべきということで，ＶＵＣＡという言葉を入れるというのは一つの手だと思う。

○　あと，キーワードと言うと，ＰｏＣ（プルーフ・オブ・コンセプト），概念検証という言葉がある。こうじゃないかという仮説は一つのある概念を有すると思う。トライアル・アンド・エラーで仮説を具体的な活動でやってみる。「学校全体の取組として，こんなことをやってみよう」と校長が発信する仮説は完全にＰｏＣで，教育委員会の発信する仮説，やってみようというのもＰｏＣ。

だから，ＰｏＣを奨励するということは，「もっとこんなことやってみよう」と活動を促すキーワードで，これはパワーを持つ。ＰｏＣがはっきりと承認され，奨励されている。ＰｏＣがあるんだから，無数のトライアル・アンド・エラーがある。そのキーワードが活動に対しての後押しをするという効果を持つ。

このＰｏＣは，どこら辺に入れるのがいいか，例えば４章の辺りの中なのかとも思うが，「今回の答申のキーワード」というページがあってもいいぐらい。

○　第２章の目指す姿については，「教職員の姿」が入っており，この教職員についての項目はきちんと設けるべきだと，はっきりと申し上げる。

生徒の未来をつくっていく学校現場で一番影響力を持っているのは，教員。だから，学校の先生方に対して「こう変わっていきましょう」とか，「こういう方向性がありますよ」としっかりと示すことが極めて重要。だから，これを入れていただいたのはいいことだと思う。

○　素案の中で突っ込みたいのは，第３章にある「ウェルビーイング」で，これは典型的な，誰も反対しないキラキラワードだが，ほとんど意味がない。幸せになるなんて当たり前のこと。戦争が起こっていて，台湾情勢も懸念され，北朝鮮も弾道ミサイルを発射しているという状況で，「ウェルビーイングかい」，「えらい平和ぼけしているな」と感じる。

文科省の中央教育審議会が挙げているものなら，別に排除する必要はないと思うが，ウェルビーイングは絶対キーワードではない。色々なウェルビーイングについての解説を見ると，突き詰めると，幸福とか，いいあんばいみたいなことだが，「一人一人の」というと，どちらかというと個人主義的，我が幸福みたいな方向性になっている。しかし，やるべきなのは，「互助」であり，「貢献」であり，「協働」だ。社会に対しての「貢献」，互いに助ける「互助」，共に心を合わせて，力を合わせて働く「協働」。そういうことのほうが私はキーワードとして良いと思う。

ウェルビーイングを考えさせるって，一体何を考えるのか。典型的に無意味なキラキラワードで，これに何でも紐づけて，どんどん希薄になる，ただ漂っているだけの何のパワーもないバッドワードだと思う。議論のためにあえて強調して言わせていただく。

○　あと，「ＶＵＣＡ」，「ＰｏＣ」に加えて，もう１個キーワードとして，社内，社外の講演でよく話すのが「剪定」。剪定しないといけない。

剪定の本質は何かというと，木を構成する上で大事な枝ぶりとか骨格枝というのをきちんとつくっていくために間引く行為で，その狙いは，形を整えることもあるが，実は健全な育成，成長を目指してするもの。木が茂り過ぎて，枝が茂り過ぎると，風通しが悪くなって病気の発生率が格段に高くなる。

剪定は，実は自然の中でも起こっていて，例えば沖縄にあるガジュマルの木は，年に何回かある台風で，葉ではなくて枝が落ちる。これによって無駄な枝が取れ，必要な枝に養分がより行き，風通しがよくなる。もし暴風雨がなかったら，ガジュマルは枯れまくってしまう。

アナロジー思考※で，それを仕事に返してみると，仕事でも業務剪定みたいな，意識的な剪定をしないと，どの組織も放っておくと，あるいは破壊的な何か災難がないと，枝は茂り続け，葉っぱも伸び続ける。そうすると，風通しが悪くなり，何か調子が悪くなる。

会社も大体そういうもの。営業改革をしたいという会社で，営業に係る仕事を洗い出していくと，営業日報とか営業週報の作成というのがあって，副社長の机の上に山積みになっている。副社長に「これ読んでるのか」と問うと読んでない。実際，みんな読んでないこと知っているけど書いている。「なら，やめましょう，何の意味もない。営業を改革したいなら，営業マンが顧客に向き合う，顧客と折衝する時間を増やすべきだ。」と伝えた。

学校の中でも余計な仕事が生い茂っていると思う。剪定しないと新しいことなどできない。剪定もせずに新しいことばかり，要は枝を増やし続けると，にっちもさっちもいかなくなるという状況がかなり多い。風通しがよくなったら，感じられることも変わって，見えてくるものが変わってくる。

先生方にのしかかっている余計な仕事がないかという議論を先生同士でやって，突き詰める。１日24時間で，寝なきゃいけないし，時間は限られている中で，何に時間を投下したかが，結局は結果に対してすごく有力な影響因子，相関関係を持つ。先生が生徒に向き合う時間を増やすということが教育をよくするということになる。

生徒が木だとすると，先生方は，土壌だ。土地，土壌が変わらないと，上の植わっている木も変わらない。ということで，学校内の業務をどう間引くか，剪定するかということをもっと入れてもいいと思う。

会　　長：

○　広範囲にわたり，様々な意見をいただいた。特に第１章の「急激に変化する社会」というこのタイトルが，本当にこれでいいのかというところ。

急激に変化している社会は，これまでもずっと変化してきていて，これからも変化するが，そこに現状の危機感を入れた方が良いという御意見。「ＶＵＣＡ」という言葉も出てきたが，ただ社会をなべて説明するだけでなく，危機感を伝えられるようなタイトルにすべき。

委　　員：

○　タイトルは「ＶＵＣＡの時代」とスパっと書いて，「何やそれ」と思われる表現にした方が多分にいい。お役所の資料によくある環境がどうとか，「そんなこともう知っとるわ」みたいな，形式として入れてあって読む価値もない話が書かれてあるものは「剪定」した方が良い。

しかし，環境を前提として認識するのは本当に大事であるのに，軽んじられていると思う。軽んじられている結果が，ありきたりな環境認識みたいなことを過不足なく記載して，何か美しい文章にまとめるということに〔なっている〕。そうではなく，ここに訴えたいことがあるということ〔を示す見出し〕にしたほうがいい。

会　　長：

○　見出しについては，また事務局でも考えていただきたいが，現状の危機感をしっかりと分かってもらえるよう，キーワードとして「あれっ」と思えるものを入れながらタイトルにするというところかと思う。

○　内容については，「ＶＵＣＡの時代」であり，「ウルトラＶＵＣＡ」という言葉もあったが，そういう時代になっていることは，御賛同いただけるかと思う。

○　それでは，続いて内容の協議に入っていきたい。

第１章は，本県の産業教育を取り巻く現状ということで，先ほどの「ＶＵＣＡの時代」というキーワードを入れるとなると，少し内容も変わってくるとは思うが，現状を説明していくという章になる。中間報告では，第４章の方策のところが，現場の教職員の方々がどういうことをするべきかという山場であり，そこに向かって初めの段階でどのぐらいの危機感を持ってもらえるかというところ。

第１章については，データをまとめているところでもあり，こういう視点も入れた方がよいといった御意見あれば伺いたい。

委　　員：

○　「はじめに」のところに「ＶＵＣＡ」というワードが入っているので，「はじめに」のところでＶＵＣＡであることの認識をしっかり入れて，第１章はこういうデジタル技術の状況などの内容としてもよいかと思う。あるいは，もう一回ここで，いろんなことを書いた上で，ＶＵＣＡで，さらにコロナによって10年分の変化が２年で起こっている状況なので，そういう変化のことを書いてもいい。

それと，「グローバル化の進展」とあるが，これはこの間までの話で，どちらかというとブロック経済系の非グローバリズムの方向に行く傾向もあるので，このあたりはアップデートしなければいけないと思う。この案は，ウクライナへの侵略が前提になってない。ウクライナ侵略の問題は，ヨーロッパだけの問題ではない。

会　　長：

○　ＶＵＣＡについては，「はじめに」のところに書かれているが，これは言葉が出ているだけで，中身について説明があるわけではないので，事務局で調整をお願いしたい。できれば「本県の産業教育を取り巻く現状」のところにそういう強い言葉で示せるとよいと感じる。

委　　員：

○　「はじめに」から第１章の急激に変化する社会については，確かにそうだと思う。

「急激に変化する社会」の項の内容を見ていくと，１点目はデジタル，２点目がグローバル，３点目が人口減少や少子高齢化という社会の変化，最後が人生100年時代となっている。

デジタル化やグローバル化というのは，社会の変化として必ず出てくる話題だが，大事なのは人口減少や少子高齢化という予定されている社会の変化のところへの対応。これは希望的観測みたいな答えはもうみんな書いていて，何とかそこに持っていこうとするが，指摘があったとおり，予想不可能な社会の変化というのがここに入ってくると思う。そこへの学び，意識みたいなものも入れておく〔必要がある〕。

社会の変化について，予想される変化と予測不可能な変化が二つあったとして，やっぱりその地域の伝統だったり，文化だったりがどうあって，これからどうなってほしいかという学びのところを何かここ〔に書き込むことはできないか〕。

三つ目のいわゆるゼネラルな社会変化のところを想定されていることに加えて，予測不可能な，コロナのようなパンデミックだったり，紛争だったり，地震などの災害もあるかもしれない，そういう全く想像もしてないことに対して，どうするか，何を備えておくのか，何を学ぶべきかということを一つ分けて入れてもいいと思う。

会　　長：

○　ＶＵＣＡという言葉の中に予想できないところもあると思うが，そういうことを少し強調して入れるという話かと思う。地域社会や文化という言葉もあったが，それをうまく入れて，それをベースにした産業教育につなげていかなければいけないといった視点は確かに入ってないので，触れられるといいという御意見と捉える。

広島であるべき教育というところを主張することになるので，現状のところに，地域社会や文化の話題も入れられるとよいと思う。

○　第１章はここで区切り，第２章に移りたい。

第２章は，目指す姿ということで，生徒の姿と教職員の姿が入っており，こういう項目はあってしかるべきだと私は思うが，取り上げ方も含めて，内容等について御意見をいただきたい。

教職員の姿については，先ほどの剪定の話があったが，第４章の方策のところかとも思うが，目指す教職員の姿のところに，剪定ができるような教職員が必要だということをここに入れるという考え方もあるかとは思う。

○　事務局に確認したいが，この知識とスキルについては，どういう分類になっているのか。

高校教育指導課長：

○　知識については，物事を知っているという知識であるが，スキルはそういう知識を活用して高いレベルで概念理解に持っていくであるとか，認知スキルということで，様々な課題を解決するために，例えばコミュニケーション等も入っているが，複雑にいろいろな物事の解決に向けて必要な認知スキルがここに入っていると考えていただきたい。

下の注釈にあるとおり，平成26年に広島県教育委員会が出した『学びの変革アクション・プラン』の整理の仕方を使ってこの四分類にしているが，分かりにくいかとも思うので，ここは違う形でお示しすることも考えたい。

会　　長：

○　分かった。

委　　員：

○　第２章の目指す姿に書かれていることは全て重要だが，やはりゴール，目標というところなので，今お話があったような内容を取り入れていかないと，せっかく第１章で，こういう時代なのでこういう人材をという形で膨らませても，この第２章が変わらなければ，結局何か現状分析しただけになってしまうと思う。ウクライナ侵略という状況が発生する前であれば，これでよかったが，先ほどのお話にあったようなところを加えてもいいと思う。

会　　長：

○　目指す姿のアの四角囲みの中は大きく変えず，「イ　身に付けさせたい資質・能力の要素」というところを現在の状況に対応させていくということかと思う。

委　　員：
○　ウクライナ侵略に関しては，生徒にしても，一般の方々にしても，実際のところ，自分に関係のないことと捉える方が非常に多いと思う。別の国で起きていることで，全く認識しない，危機感がないというような状況に陥る方が大多数ではないのか。
　しかし，世界情勢が変わることによって，自分の身の回りに大きな影響が起こるということを敏感に捉えて考える力をつける必要が，生徒だけではなく先生にもあると思う。現状の把握や，それによってどういう影響が起こるかという，危機感に当たる部分は，あった方がいいかと思う。
会　　長：
○　ウクライナ情勢の変化が発生する前から素案を作成しているので，急激に変化している時代に合っていない，時代に後れを取っているところが出てきているということかと思う。
委　　員：
○　「教職員の姿」のところの内容は，言わずとも分かっている話だと思う。これでは，他県でも全部通じる内容で，もっと教育長をはじめ，広島県の教育の方向性をつかさどるアイデア，思いを濃厚に入れて，広島県の教職員にこういうことを求めているのかと〔気付かせる〕ようなものじゃないといけない。
　せっかく「教職員の姿」という項目があるので，「学校の姿」，もちろん学校の具体的なありようは学校それぞれだが，方向感として専門学科も含めて先ほど話したＰｏＣという，校長を中心に「こんなことやってみよう」ということをどんどんやっていくという方向感は共通でできるところがあると思う。
　個別具体的なことではなくて，抽象度の高い取組の指針を明確に出して後押しをしてあげるっていうことが，「本県の産業教育の在り方」ということに対する答申，現場にいる先生方に力を与えられると思って，３として学校の姿というところを，細かい具体ではなくて，具体を超えた共通した取組の方針とか，こうあるべきというものを提示できたらいいと思う。
会　　長：
○　教育委員からも「目指す学校の姿」を入れてはどうかという意見があったと紹介いただいたが，まさに同じ意見だと思う。
　教職員の姿については，もっと踏み込んだものを入れられるといいと思うが，踏み込み過ぎも気にはなるところではある。高校の現場から見て，どう思われるか。
委　　員：
○　現在，広島県では色々な形で，今までにはないカリキュラムを，教員が一生懸命に開発し，実践している。ただ，それをどう振り返り，どうまたつなげていくか，実践したことに対しての自分たちの振り返りをしっかりしながら前に進まなければいけないと日々感じている。
○　各学校において，教員は研修や会議などで情報共有する場面を積極的につくっている。ただ，少し時間を空けて，落ち着いて振り返ってみるとか，生徒に向き合う時間を意識して丁寧につくるとか，そういうバランスも学校現場ではやはり必要ではないかと感じる。
会　　長：
○　先程の剪定の話にもつながる意見。何か新しいことをやるときには，やめるものを２つぐらいつくるべきと言われるが，現場が忙しいことは目に見えているので，そういうことも意識して，物事をやめることができる教職員の姿みたいなことが書けるといいかもしれない。
　目指す学校の姿を入れるという意見もあったので，その方向で検討をお願いしたい。
委　　員：
○　広島県の新しいカリキュラムというときに，広島ならではの伝統だったり，文化だったりというのがどこかに入ってないといけないと思う。
　外部講師が生徒に教えることもあるかもしれないが，基本は学校の先生だと思う。現状，例えば自分の学校の歴史とか，地域の伝統文化というのを教える授業をしたり，もしくはそういうことを教えるスキルを持っている先生は実際いるのか。
教　育　長：
○　文化や歴史については，キャリア教育の一環として，地域の方に来ていただき，地域の歴史，あるいは文化，伝統芸能を学ぶであるとか，仕事図鑑や歴史図鑑などを作っている学校もある。
　こういった取組を通して，我が町，我が市，あるいは我が島の伝統文化を大事にしているというところがあるので，教員が全てを教えるというわけではなく，地域を通して，小・中・高の教育で広島県はしっかり取り組んでいる方かと思っている。

委　　員：

○　私も島しょ部や中山間の学校では，地域住民の方も一緒になって地方創生，地域創生ということに力を入れられて活動されていると思う。

○　マツダが100周年の記念行事をやったとき，マツダの歴史と広島の歴史を全社員向けに教育をしたところ，新入社員や若い社員が，「初めてこんなことを知った」，「自分の会社のことを何も知らなかったが，歴史を知って自分が何者なのか知った」，「これから何をすべきか思い描けた」みたいな反応があった。

○　学校現場の先生は何年かで入れ替わってしまうので，その学校に密着して深くお話しすることは難しい面もあるかもしれないが，子供たちに対して，そこに在学する３年間，学校の歴史，先輩のしてきた歴史，自分たちが将来何をしようとし，何をすべきかということを授業の中に一つ入れていければいいかと思う。

会　　長：

○　第３章にグローバルという言葉があるが，グローバルは別に世界のことを知るだけでなくて，自分たちのことをしっかりと知るというところも入ってくると思う。そういうことも併せてこの報告書の中に書き，広島の文化，社会，そういう言葉も入れるといいかと思う。

○　第２章の議論は，ここで一旦終了し，第３章のところに議論を移したい。

　第３章は，方向性ということで，先ほど御意見のあったウェルビーイングについてもここに書いてあるが，この辺に現状を踏まえて，ＶＵＣＡの時代であることを意識したことをもう少し加筆していく必要があろうかと思うが，いかがか。

　先程，ウェルビーイングはどちらかというと個に対するものという指摘もあった。そういう意味では，この方向性のところにみんなで協働していくということも少し入るといいかと感じている。

委　　員：

○　「個人と社会全体のウェルビーイングの実現」という項目は，ほとんどウェルビーイングの概念の説明になっている。「みんなで幸せになろう」ということは大事だが，〔その考え方は〕もう普通に持っている。そんな言語的な解説の能力，知識を生徒に与える必要はない。

　でも，そのためにこういうことが大事だという指針がない状況だと思う。だから，お互いに助ける，理解し合う，貢献し合うとか，よりよい方向に行くということをやはり記載すべきで，ウェルビーイングの解説は必要ない。

　ウェルビーイングを否定しているわけではなく，ウェルビーイングをもって何をしたいか，ウェルビーイングのために何が大事なのかということ。

○　すごく個人主義的に走りやすい時代でもある。ＳＮＳもそうで，つながっているようで疎遠なつながりが拡大して，実は孤独になっているという矛盾を抱えていたりする。うちの会社はこの２年間，オンラインにして出社率５％で業績はいいが，明らかに何かビタミン不足のような状態に陥って，体調を崩す人も出てきている。やはりお互いが気にかけ合うとか，一緒に仕事するということも大切だと思う。

会　　長：

○　御指摘の部分についても，文章を補強する形で検討をお願いしたい。

○　続いて，第４章の方策について，確認しながら議論を深めたい。

　高校の現場では恐らくここを見ながら，具体的に何をしよう，何に取り組もう，そんな話になっていくかと思うので，そうしたことも念頭に御意見をいただきたい。

○　第４章については，具体的なことが書いてあるようで書いてない。レベル感が違うということもあるが，この点もどうか。読む側から見て，先ほどの剪定ではないが，もう少し厳選して書いた方がいいのか，このような形で網羅的に並べる方がいいのか。私は，もう少し具体的なものに厳選した方がいいという印象も受けるが，そうした点も御意見をうかがいたい。

委　　員：

○　14ページの「(3)教育環境の整備」の「視点２」のところで，「産業界等の教育資源の活用を補助する組織を設置する」とあり，大変驚いた。本当に実践的な教育を進めるには，こういった産業界と連携していくためのツールが必要だと常に思っており，大学では，産学連携組織というものが当たり前にあって，ようやく高校でもこういうことを考えるようになったと思い，大変喜ばしいことだと思う。

　ただ，少しだけ危惧する点として，「教育委員会内」に産業教育支援協議会を設置とあるが，教員とのコミュニケーションを取りながら，あるいは企業間との対応をするときに，やはり各学校に校長の直轄という形で組織を配置した方が，皆さんが共通の認識で物事を動かしやすい。教育委員会という離れたところよりも，各学校にこういう組織があったほうがいい。

また，コーディネーターを配置するのであれば，権限と責任を明確化しないといけない。特に権限をどこまで与えるのかということも含めて，しっかりとした議論が必要かと感じる。

会　　長：

○　個別に委員会，検討組織みたいなものがあったほうがいいというのは，皆さん賛成いただけると思うが，リソースが限られているので，そういうところをどうやってうまく回していくのかというところ。例えば，こういう地域と連携を取るための協議会，委員会のようなものが，各校にあるというようなことは想像できる範囲のものでしょうか。

委　　員：

○　企業の方と各学校で構成する産業教育振興会という組織があり，校長や進路指導主事などキャリア教育に関わる教員と，企業側との意見交流する場とか，生徒が発表する場などを設けている。産業教育振興会の事務局は，県立広島工業高等学校に位置づいており，広島商工会議所の会頭に会長となっていただき，あとは地区ごとの代表が各分野の方々とのつながりを持ちながら，情報共有をしている。

私も学校現場におり，進路指導を含むキャリア教育については，学校外の方のお力をお借りしたいということをすごく強く感じている。本校は歴史も古く，ＯＢもたくさんおられるので，企業人の方など色々な方との交流やお話を伺う機会が多いかと思いきや，教員たちも時間に追われそれらを調整する時間の確保が難しいのが現実である。ここに記してある「コーディネーターの設置」というのは，すごく魅力的。地域活性化を推進するためにも，社会と学校をつなげる上で，コーディネーターというプロパーの方を配置するのはすごくありがたく，有効であると思う。

一方で，校長直轄というのも確かにスピーディーではあるが，各学校での調整になると，情報共有が限られたりもする。そうすると，権限はいただいて分担・共有しながら，教育委員会を通して企業との連携が活性化するのが理想の形かと思う。これは何らかの形で実現したい。

会　　長：

○　「(4)専門教育の魅力の発信」について，中学校側から見ていかがか。

委　　員：

○　中学校の立場では，まさにその項目に関心を持っている。

まず，このように項目を一つ立ててまとめていただいたことが大変ありがたい。中学校現場では，常々進路指導，進路学習を進めていく上で大事にしていることが主に三つある。

一つ目は，高校の先生からの生の声を聞かせていただくこと。同じ内容の話であるにも関わらず，高校の先生からの話は，中学校の先生からの話を聞くよりも，中学生の捉え方，重みが違う。したがって，高校の先生に中学校に来ていただき，中学生に直接説明をしていただいたり，高校のオープンスクールに積極的に参加するように中学生に呼びかけたりすることで，高校の先生からの生の声を聞く機会を数多く設けることを大事にしている。

二つ目としては，高校のホームページやパンフレット等による文字や写真等ではなく，高校生の活動する姿や実践発表等による生の声を見聞きする機会を積極的に設けるということ。

三つ目としては，それらを見る，聞くだけでなく，中学生自身が体験させていただく機会を設けていただければ非常にありがたいということ。

この三つを頭に浮かべながら読むと，全て網羅されていると感じる。例えば，「実習の体験」，「出前授業」，それから「研究発表への参加」等々で，四角囲みの中にも「参加型イベントの企画・実施」や，「ホームページ，ＳＮＳ等を活用した発信」，「専門学科の魅力を伝える説明会」，この辺りが中学校として，まさにこれまで大切にしてきたこと，そしてこれからも大切にしていきたいということが書かれている。

○　一点お願いしたいのは，中学校と高校のタイミングが合わないこともあるので，今後，例えば高校生による実践発表の動画などが，その発表の後いつでも見られるというようなシステムなどがあればいいと思う。

会　　長：

○　中学校側からどう見えるかということで御意見いただき，中学校の現場が考えているようなことはおおむね網羅されているのではないかということだった。

委　　員：

○　実践的なものを小・中・高で見ていただくということはすごく大切なこと。

私どもは小・中・高校に食育の面で出前講座等に行っており，そこでやはり歴史・文化等も踏まえて，例えば和包丁がなぜこんなに多くの包丁の数があるのかとか，そういった魅力を伝えている。すると，生徒の方からすごく多方面の質問が出され，料理の魅力に気づいて

もらえる。これは講師を招いて実践的なものをやるというところがいいのだと思う。
　そのときに専門高校では外部から講師を招かれており，先生方にとっても学校教育の観点から，違った方面の学びができると思う。そういう講師と学校の先生方のコミュニケーションが取れるような場があればと思う。

会　　長：
○　「(2)の教職員の資質・能力向上」に向けた取組ということで，地域や外部との連携が必要ということかと思う。これについては，視点３というところで「産業現場訪問ツアー」という記載があり，こういうものも網羅されていると思う。

委　　員：
○　生徒が学校を好きになって，その生徒が中学生，小学生にその高校の魅力を発信するようになるためには，その高校の魅力を在籍している生徒自身が感じること，そして，それを後押しするためにも，学校教職員が，その高校の魅力を改めて知ることができるようにする取組も必要なことと思う。
　自分がいる学校が楽しくないとか，面白くないと感じてしまうと，そういうことがきっかけで，結果的にやめてしまう，夢を諦めてしまうということになってしまうので，自分のやっていることは間違っていない，受皿としてこの高校に来れば大丈夫だといえるような方針が学校側にあればいいと思う。

会　　長：
○　やはり教職員も，自分の所属する学校が好きにならないと，生徒にうまく伝えられないと思うので，そういう〔魅力を感じられる〕取組があってもいい。

副　会　長：
○　「専門教育の魅力等の発信」のところで，大変いい取組が書かれており，専門高校の活性化であったり，存在感を示したり，生徒のモチベーションを上げていくという意味でも，期待できると思う。
○　一つ気になるのが，「女子生徒にものづくりの魅力を感じてもらう取組の発信」というのがあるが，「女子生徒」と限るのは，何か女子生徒はものづくりに少し距離があるということを示すアンケート結果やデータといったものに基づいているのか。いわゆるアンコンシャスバイアス※のような，女子生徒はこういったものづくりには疎いだろうとか，そういう先入観が入っているなら，再考した方がいいかと思う。

会　　長：
○　ここは，データに基づいた記載としているか。

高校教育指導課長：
○　女子生徒のアンケート等は行っていないが，工業高校であれば，実際に入学してくる生徒のうち，女性の割合がかなり低いという状況がある。
　ものづくりをはじめ，自分の持っている強みを生かすには，性別に捉われず様々な価値観をぶつけ合って，新しい価値を生み出すということが求められるのに，あまりにも偏重がかっているので，そこをどうにか崩したいということから，一つの事例として，このように「女子生徒にものづくりの魅力を」という形で書いている。極端過ぎるようであれば，どの分野においても，性別を問わず多様な子供たちが関わってつくっていくという様な書き方も検討できるかと思う。

副　会　長：
○　あえて女子生徒とまで特定しなくてもいいような気はするが，意図は分かった。

教　育　長：
○　全体を通して，少し発言させていただくことをお許しいただきたい。
　本日の審議を通じて，とにもかくにも現状認識が大事だと感じた。答申の取りまとめは８月を目指しているが，８月にはどうなっているか分からない。委員から御指摘いただいたとおり本当に「ウルトラＶＵＣＡ」だと感じていて，現在の状況で書くと，「まだこんなこと書いているのか」みたいなことになりかねない状況にある。
　「グローバル化の進展」も違和感があり，むしろ自国ファーストになりつつある。自分のことしか考えないというような割拠見（かっきょけん）しかなく，内政イコール国際関係みたいな形になっていくというこの時代の中で，生徒，あるいは大人もどう生きていくのか，どうやって個人を超えることができるのか。実は，心理学者のマズローが「五つの教育欲求」というのを50年以上も前に言っており，トランスパーソナルということで，「個人を超えたものがこれから絶対に要る」と予言したと聞いたことがあるが，そういう時代になっている。

そうした中で，第３章のウェルビーイングについて，様々な御意見をいただいたが，「生きるとは何か」ということを自分の中で問うて，周りとの在り方，地域との在り方，社会との在り方を自分でつくっていかないといけない時代かと思っている。そういう点で，トライアル・アンド・エラーというのがすごく大事な時代だと思っている。

教職員のことについては，生徒に向き合う時間が大事で，最も大事なのは，御意見のあったとおり「楽しい学校」とすること。通って職業的なことは学べて，スキルもつくとなっても，楽しくないと生徒は学校に行きたがらない。教職員のみならず，教育委員会もアジャイル※な組織にして，いろんなことをトライしないといけないし，学校も生徒に向き合う時間を取るため，「剪定」していかなければいけない。

○　本日いただいた御意見は，全て第１章の現状認識が関わっているので，事務局で検討させていただき，目指す学校の姿も含め，少し加筆修正をして，どんな生徒になってもらいたいか，私たち大人はどういう社会をつくっていきたいか，どのように生徒に発信していけるか，そういう構成にさせていただければと考えている。

会　　長：

○　全てをまとめていただいたように思う。只今ありましたように，この後も加筆修正して，各委員に確認いただいた後，パブリックコメントを受けるという形になる。パブリックコメントを受けた答申案をまた議論して，最終的な答申として決定していくという流れになるので，引き続きの御協力をお願いしたい。

○　以上で，第３回の会議を終了させていただく。

以上

【用語解説】

	用語	解説
あ	アジャイル	素早い。機敏。「頭の回転が速い」というニュアンスが含まれる場合がある。
	アナロジー思考	物事を抽象化し，類推（アナロジー）を用いて構造的に類似した他の事柄に当てはめて考える方法のこと。類推思考。
	アンコンシャスバイアス	これまでの経験などを基にした，自覚のない偏ったものの見方。
う	ウクライナ侵略	ロシア連邦が令和４年２月24日に開始したウクライナへの軍事侵攻。
え	ＳＤＧｓ （ｴｽﾃﾞｨｼﾞｰｽﾞ）	Sustainable Development Goalsの略。 「持続可能な開発のための2030アジェンダ」にて記載された2030年までに持続可能でよりよい世界を目指す国際目標（2015年９月に国際サミットで採択）。17のゴール，169のターゲットから構成。
ふ	ＶＵＣＡ （ﾌﾞｰｶ）	不安定(Volatility)，不確実(Uncertainty)，複雑(Complexity)，曖昧（Ambiguity）の頭文字を並べたもの。 将来の予測が困難な状況を示す造語。